

法曹養成プログラム(法曹コース)の履修例

同志社大学法学部

法曹養成プログラムについては
パンフレット「法曹を目指すあなたへ」
をごらんください。



履修のイメージ 早期卒業するなら、計画的な履修を。

		1年次	2年次	3年次	4年次
		(経済の基礎I)	(経済の基礎II)		
			人権保障の基礎I		
必修科目	民法Ia (憲法①) 民法Ib (物権)	民法IIa (債権総論①) 民法IIb (契約)	民法IVa (担保物権) 民法IVb (債権総論②) 民法V (不法行為)	民法IVa (親族)	民法IVb (相続)
	刑法総論I	刑法総論II	刑法各論I 刑事訴訟法	刑法各論II 刑事訴訟法II	
			刑事訴訟法I	刑事訴訟法II	
				行政法総論I 行政法総論II	
選択科目			憲法特講I 憲法特講II		
		会社法特講I 会社法特講II			行政法特講
			司法特講I 司法特講II		司法特講III 司法特講IV
					(選択科目) 60単位 (必修科目)
					GPA3.0 (必修+選択科目)
					法科大学院 入学試験合格

早期卒業希望登録

法科大学院入学合格

早期卒業

Doshisha University

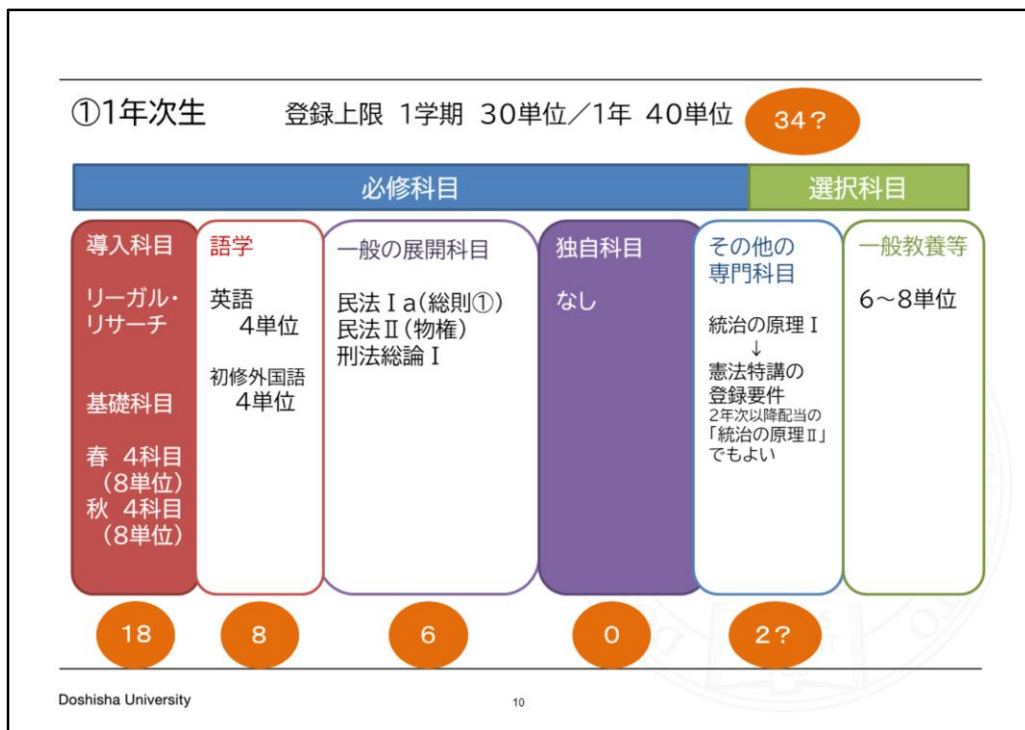
1

法曹養成プログラムの履修のイメージです。

必修科目数が多いので、早期卒業を考えている場合は、1年生からの計画的な履修が必要です。次のスライドからは、1年生から3年間で履修するための履修例を示します。

4年で卒業する場合は、2年生から3年生のうちに、「法曹コース修了見込み」が要件となる独自科目（憲法特講・行政法特講・司法特講）以外の科目を履修しておくことが望ましいでしょう。

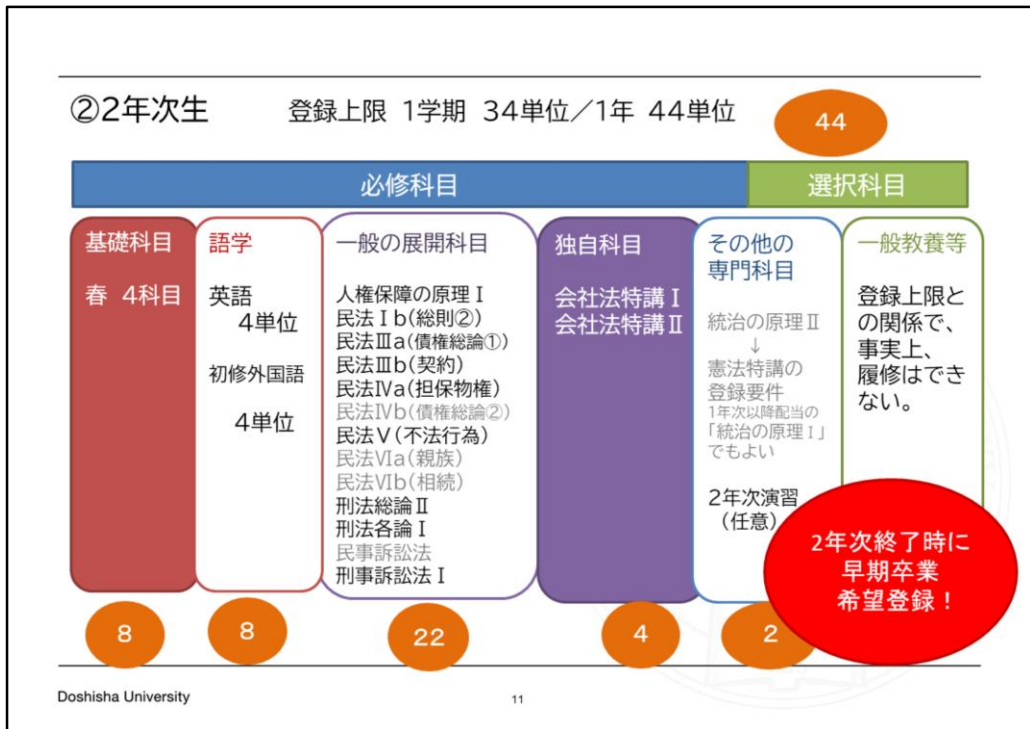
なお、2019年度生については、入学後に「法曹コース設置」が決まりましたので、このカリキュラムどおりではありません。



法律学科の1年生は、春学期に、導入科目のリーガル・リサーチと基礎科目の基本的な人権概論、民法概論、刑法概論、法と社会、秋学期に基礎科目の商法概論、民事手続法概論、刑事手続法概論、国際社会と法を履修します。これで9科目18単位。

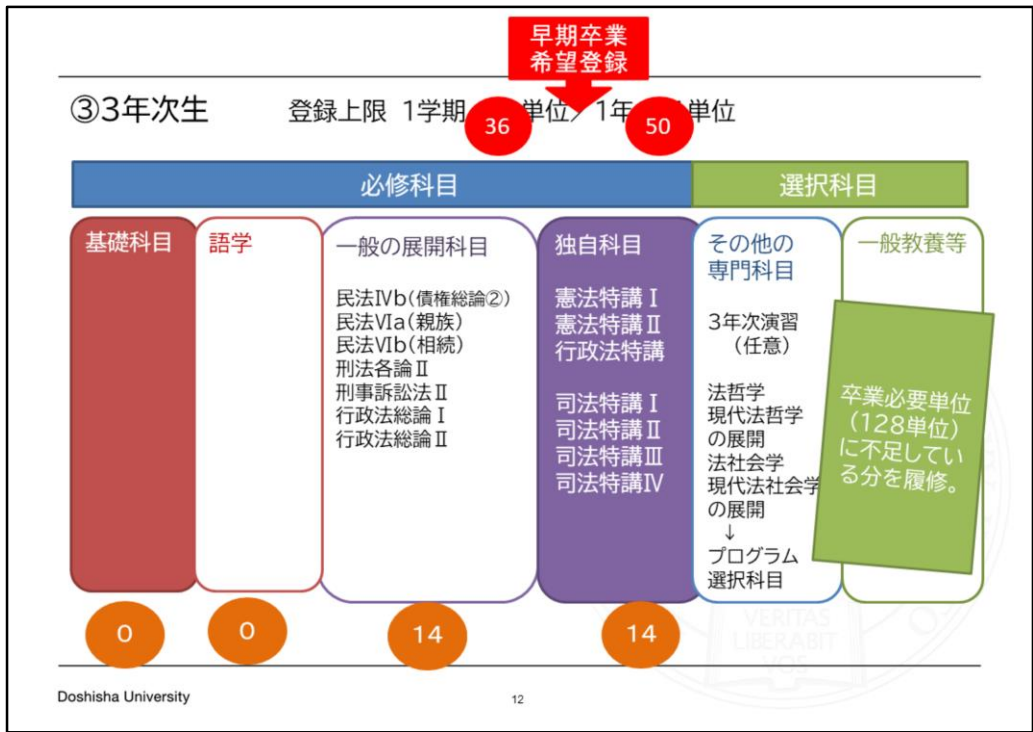
語学が英語と初修外国語で8単位、法曹養成プログラムのうち、1年次配当の必修科目は、一般の展開科目が民法ⅠaとⅡ、刑法総論Ⅰの3科目で6単位、独自科目はありません。

その他の科目としては、法曹養成プログラム科目ではありませんが、統治の原理ⅠまたはⅡが憲法特講の登録要件になっていますから、1年生のうちに履修しておくことをおすすめします。そうすると、これだけで34単位あります。1年生の登録上限は1学期30単位、1年で40単位なので、あと6単位、統治の原理Ⅰをとらなければ、8単位ほど余裕がありますので、一般教養科目を履修しておくと思います。



2年生では、基礎科目が行政法概論、知的財産法概論、雇用と法、国際社会と民事法の4科目で8単位、語学が8単位、法曹養成プログラムのうち、2年次配当の必修科目は一般の展開科目が13科目28単位、独自科目が2科目4単位、これだけで48単位、憲法特講の登録要件である統治の原理 II を履修し、さらに2年生からはゼミが始まるので、2年次演習も登録するととなると、+4 単位で、52単位と、登録上限44単位を超えてしまいます。1年生で統治の原理 I を履修し、一般の展開科目のうち、民法2科目、あるいは、民事訴訟法を3年生で履修することになると、44単位におさまります。民法科目では、応用的な内容である民法IV bや、家族法を3年生にまわすとよいでしょう。ゼミをとりたければ、6単位分を、3年生にまわすこととなります。

早期卒業を希望する人は、2年次終了時に、早期卒業希望登録を忘れずに行いましょう。



3年生になる前に、早期卒業希望登録を行います。そうすると、登録の上限が1学期34単位から36単位へ、1年44単位から50単位へ上がります。

そのうえで、法曹養成プログラムの必修科目のうち、一般の展開科目では、2年次配当のもの残り、3年次配当の4科目8単位、独自科目では3つの講義科目と4つの演習科目を履修します。

その他の科目については、ゼミや法曹養成プログラムの選択科目を中心に、卒業必要単位128単位をどのようにして満たすかを考えながら、履修しましょう。